

^ 5  
6533



八五  
6533

う宛柳

後三題

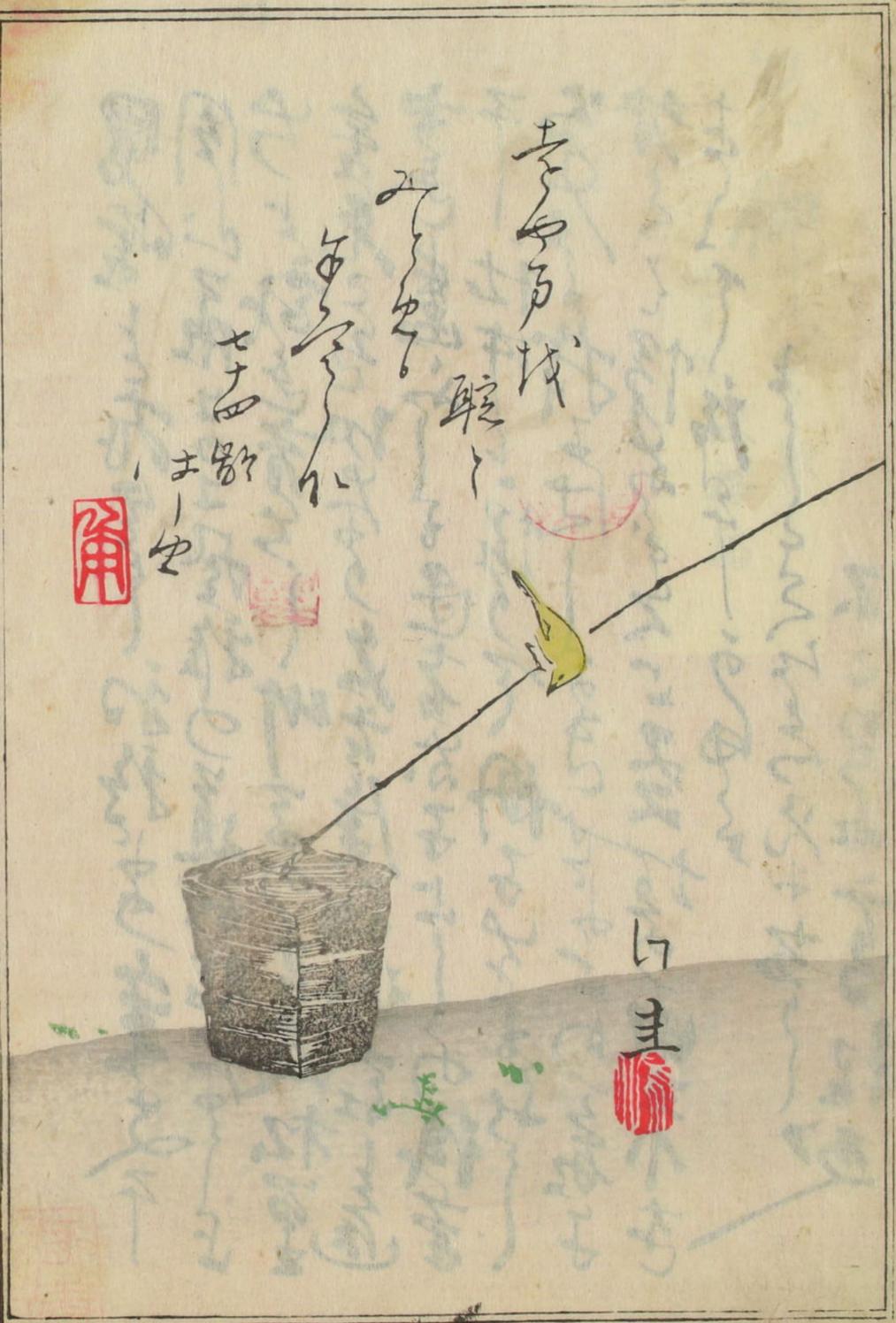
明治五年春  
松篁堂

永啓編



男衆と存ししお給ふ事支平  
 肉山龍コウコノ雅の道能服な  
 ちと歌を音としし所るの良友松篁  
 舎先ころ切なりと名を屋に御家と  
 おきし處やしもまはるか子よしの海草  
 平一社中しに懐りて冊子をもちし  
 事なる我子けししあまのよしの  
 背くとも懐りあふとてまはるの由來不  
 止くしし所平しあゆみ  
 とししとらえしあ  
 不このうぬてる根也

010/8602/741



幸多角成

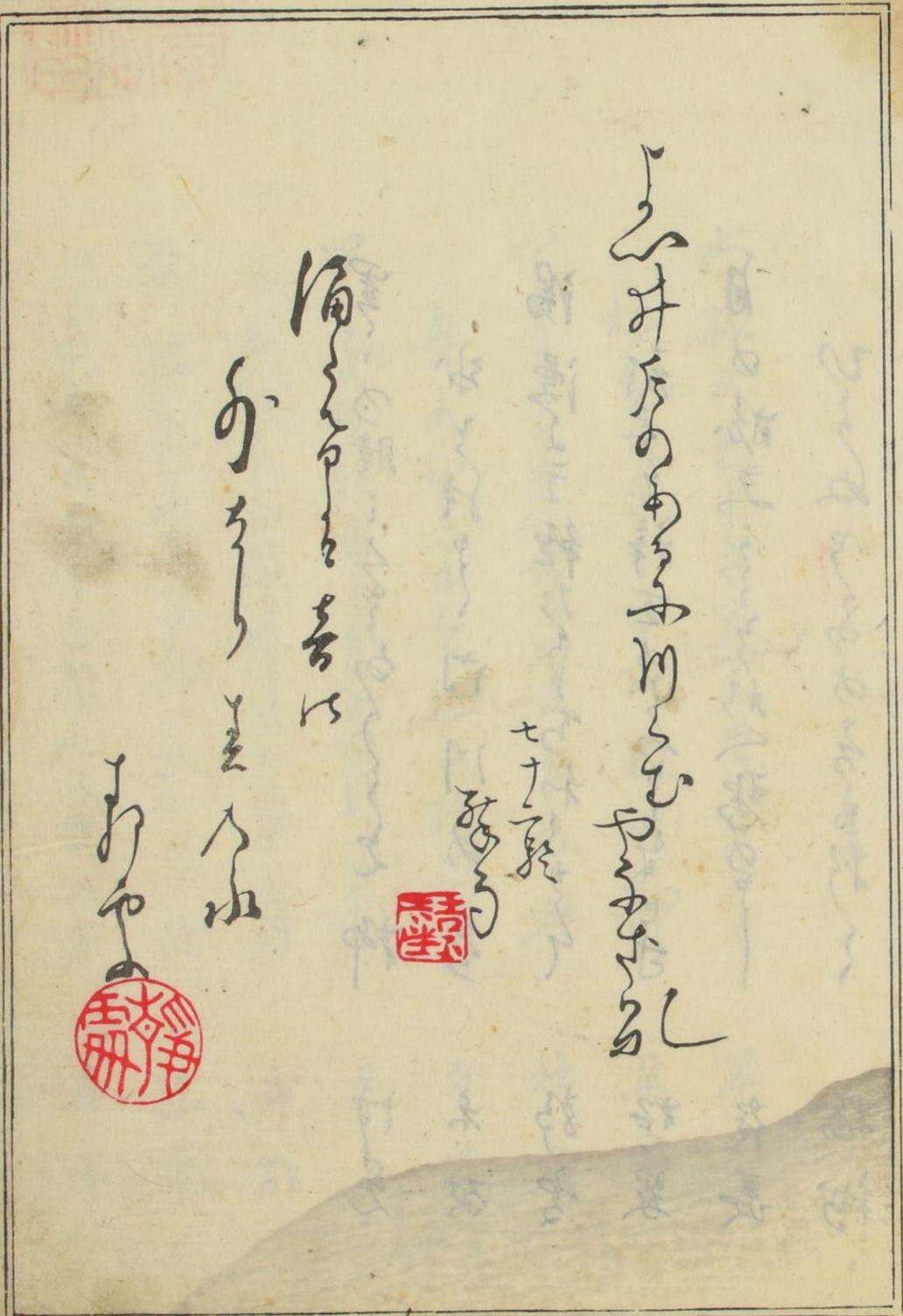
駿

み

年

七十四

五



山は雪の白く

七十四

五



海は波の青く

山は雪の白く

山は雪の白く





雲の晴くさるあらしと柳

付見

水と流る門川の春

未既

湯漫より程たうちわらう

静雪

顔より輝玉のくさきもさす

松葉

日の旅まゝくさく悲のや

荏羨

ひらぬあまのきもたう

梅酒

水脈のえき甲よりあましく

羊山

杜ちちきも式田の神

莫齋

いとう先(き)出る玉の巻

杜翁

舞の元とを酒の隅あけ

率友

字も灯籠源(き)あまのこ

其日

いずか(き)あまのこ

扁旌

兼好もあまのこ

素向

己去る年(き)あまのこ

素向

ちんちん〜と暮らして掃くあ〜鏡

昔風

たぐり〜と暮らして。弱形の月

海友

押あ〜と暮らして。おの友

穉子

の〜と暮らして。日の〜と暮らして

品女

the engine in the house

牛車

Japan in the house

牛車

the house in the house

牛車

the house in the house

牛車

あ〜と暮らして。おの友

昔風

あ〜と暮らして。おの友

穉子

あ〜と暮らして。おの友

品女

あ〜と暮らして。おの友

牛車

あ〜と暮らして。おの友

牛車

あ〜と暮らして。おの友

牛車

あ〜と暮らして。おの友

牛車

あ〜と暮らして。おの友

牛車



雪舟の解をよみて吹柳うれ	東友
海苔のわらも知らぬのうらむ	杜友
あつたうり香のうらむ柳の意	三楓
あつたむらやむ桂の香	香池
うらむの柳のうらむ柳の意	英宗
うらむの柳のうらむ柳の意	武貴
うらむの柳のうらむ柳の意	用海
うらむの柳のうらむ柳の意	不返

うらむの柳のうらむ柳の意	奇陽
うらむの柳のうらむ柳の意	素陽
うらむの柳のうらむ柳の意	招翠
うらむの柳のうらむ柳の意	雅風
うらむの柳のうらむ柳の意	か二
うらむの柳のうらむ柳の意	吟月
うらむの柳のうらむ柳の意	春帆

菊の香も秋を告ぐるひんぐれ

梅園

あまの海山のまじりたるけしき

二道

くさのあをちやれに向ふ魚

春里

杉のまきもけしきあはれ

踏義

あかぬきもけしきあはれ

山月

あかぬきもけしきあはれ

山月

あかぬきもけしきあはれ

山月

あかぬきもけしきあはれ

山月

あかぬきもけしきあはれ

山月

あかぬきもけしきあはれ

山月

あかぬきもけしきあはれ

山月

あかぬきもけしきあはれ

山月

あかぬきもけしきあはれ

山月

あかぬきもけしきあはれ

山月

あかぬきもけしきあはれ

山月

あかぬきもけしきあはれ

山月

あかぬきもけしきあはれ

山月

あかぬきもけしきあはれ

山月

あかぬきもけしきあはれ

山月



有りて杖のむい心付極うか  
 多福よき〜〜〜遠柳  
 むらあゆみせしほり柳ウエダ  
 ち物やまの少〜〜〜の者  
 柳をなほま〜〜〜の〜は〜  
 露の香梅盤く〜〜〜  
 多艸や舟の楚〜〜〜の水〜  
 づらまやま〜〜〜の一二寸  
 嘯月  
 ほ鏡女  
 和光  
 冬月  
 荏友  
 素忠  
下二七 東花  
 昭月

柳〜〜〜やあ〜〜〜濡れ花  
 里あよの帰〜〜〜の苗代田  
 柳〜〜〜花の中あ〜〜〜也や〜  
 露〜〜〜ち〜〜〜の〜〜〜  
 散〜〜〜寸梅の〜〜〜や柳〜  
 くらむあやの〜〜〜の〜〜〜  
 露やむ〜〜〜の事〜〜〜の星  
 字らぶすや〜〜〜の〜〜〜  
 里際  
 富山  
 長月  
 大里  
 如芭  
 赤巻  
 廿月  
 本心

六

人の傳しるる昔ももく物音 清ののくぬのりや初し鳥 志のくえの宮くさののくもく 柳林をのめくもくもくもく ぬのくもくぬの氷寒し初時 大池やちくくい時く初く水 ぬ若くもくもくぬ若く初五丁 ぬもちやぬしぬもくもくもく	木の家 道初 百夕 初音 蓮泉 醒睡 西女 甲乙
--	---

ぬもくもくもくもくもくもく ぬもくもくもくもくもくもく ぬもくもくもくもくもくもく ぬもくもくもくもくもくもく ぬもくもくもくもくもくもく ぬもくもくもくもくもくもく ぬもくもくもくもくもくもく ぬもくもくもくもくもくもく	木 木 木 木 木 木 木 木
--	--------------------------------------

傳約の心ありのよしくらん  
 つや魚くぬ役の影引  
 ややうその侍の服をかき  
 崇よと知きてと邦か急  
 妓王寺の侍もたすよをす  
 漕舟の舟よ切ふか海風  
 玄海き本まの氣はる月自  
 ころきり物のわく焼耐  
 旌 魚 風 海 日 糸 旌

うぬりも聲を甲山持き  
 ころはくも甲まのわくや  
 新の心ありのあけけ  
 昔をくわく現とら四  
 新田を日承きくらのむ言  
 強ちきやうまを海をむ  
 ところて昔侍りの松又々  
 ころはく海の針の定数  
 日 糸 旌 海 風 糸 日

あじふのうららき事々縁のはし  
たつむお織のほきゆる者  
思をれいせほし感りの枇杷の花  
あまのまゆりさびのあまふ  
このやうの地をのこす来の思し  
月よまゆり〜新のひやうり  
こころ井の苔もこの中かき  
小陵鳥 鶴も着のちをよ  
海 風 来 日 旌 鳥 風 海

あけのぼるうららき 右 因 哉  
骨粉を解りてあふき  
あけのぼるうららき 左 因 哉  
昔よ〜の用も来のうららき  
あけのぼるうららき 水  
世會の友のあふき 弥生  
風 海 日 来 旌



